



兵庫県マスコット はばタン

兵庫県
公益財団法人兵庫県人権啓発協会

は じ め に

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、感染された方やその家族、濃厚接触者、医療従事者等に対する誹謗中傷やインターネット上での心ない書き込みなどが問題となっています。人権は、いかなる場合でも尊重されるべき基本的な権利であり、このような偏見や差別は決して許されるものではありません。誰もが互いの人権を尊重する共生社会の実現が求められています。

そのためには、相手の気持ちや立場を理解し思いやる感性を磨き、人権意識の高揚を図ることが大切です。そこで兵庫県では、日常生活の中で人権尊重を自然に態度や行動として表すことが文化として定着している社会をめざす「人権文化を進める県民運動」を展開し、人権尊重の視点に立ったさまざまな施策に取り組んでいます。

本年度のビデオ作品『夕焼け』のテーマは、「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」です。

今年、全国の中高校生対象にヤングケアラーの実態に関する調査が行われました。厚生労働省と文部科学省の調査によると中学2年の5.7%が、高校2年生の4.1%がヤングケアラーであることがわかりました。ヤングケアラーが世話をする対象は、兄弟姉妹が一番多く、幼い弟妹の見守りや家事を行っています。ヤングケアラーの多くは、誰かに相談する機会がないため実態が表面化しづらく、支援の手が届きにくい現状があります。

ヤングケアラーの背景には、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世帯の増加、家庭の経済状況の変化といったさまざまな要因があります。こうした中で、ヤングケアラーは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負うため、本人の育ちや教育に影響を及ぼすことが多く、問題になっています。「ヤングケアラー」という状況に置かれた子どもたちの健やかな成長のためには、関係機関・学校・地域・団体等がしっかりと連携し、早期発見とその支援につながる取組が求められています。

この作品をご覧いただくことで、ヤングケアラーやその家族が抱える問題を認識し、だれもが互いの人権を尊重する中で、それぞれの自己実現の達成へ向け歩んでいける社会について考える機会となることを願っています。

令和3年12月

兵庫県

公益財団法人兵庫県人権啓発協会

目 次

はじめに

I	制作のねらい	1
II	登場人物	1
III	主な場面とセリフ・学習で扱うポイント	2
IV	学習会を開催するにあたって	8
I	学習会全体の流れ	8
2	学習展開例	9
3	ワークシート	10
V	資料編「ケアラーについて」	12
I	用語解説	
2	ケアラーに関する状況	
3	ヤングケアラーの実態に関する調査研究	
4	兵庫県ケアラーの実態に係る福祉機関調査の中間報告	
5	ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の 連携プロジェクトチーム報告	
6	ケアラー等に関する相談機関について	

I 制作のねらい

今回の作品のテーマは、「ケアラー～だれもが人権尊重される社会を～」です。

相手が家族や親しい人であっても、毎日誰かの介護や世話をすることは、身体的、精神的、さらに経済的にも大きな負担がかかります。特にヤングケアラーは、学校に通い、教育を受け、友人と交流を通して成長する重要な時期であるにもかかわらず、その状況が周囲から見過ごされることが多いという問題があります。

この物語の主人公・瑠依は、幼い弟の世話や家事に追われる生活にしんどさを感じつつも、「家族のことは家族でするのが当たり前」という思い込みから、気持ちを押し殺して生活しているヤングケアラーです。しかし、小学校時代の担任であり、元ケアラーの灯との交流によって、自分の状況や本当の気持ちについて見つめ直し、将来に向き合うための一歩を踏み出します。この作品では、お互いを気にかけて、人と人がつながっていくことが、ケアラーとその家族が抱える問題解決の糸口になる様子を描きます。

ケアは他人事ではありません。だれもがケアする側にもケアされる側にもなります。年齢属性を問わず、共に助け合える『だれもが人権尊重される社会』の実現をめざすことを目的として、人権啓発ドラマを制作しました。

II 登場人物

あおの 瑠依
青野 瑠依 (14)

〈新井 美羽〉

中学2年生。父の病気で一年前から家事や弟の世話を担うヤングケアラー。



さとう 灯
佐藤 灯 (27)

〈前原 滉〉

瑠依が小学生の時の担任(育休臨時的任用教員)。認知症の祖母を介護し看取ったばかり。



せら うたえ
世良 歌絵 (61)

〈石野 真子〉

病気の夫を介護して看取る。長年美容室をやっていたが五年前に閉店。



あおの さきこ
青野 咲子 (40)

〈加藤 藍子〉

瑠依の母。入退院を繰り返す夫の看護と仕事で毎日多忙。



たにかわ あやか
谷川 彩佳 (41)

〈松下 恵〉

光葉の母。会社員。次女は虹太と同じ保育園に通う。



つきむら みおり
月村 美織 (35)

〈宋本 汐理〉

スクールソーシャルワーカー。



青野 虹太 (5) 〈木村 優来〉

瑠依の弟。保育園児。

谷川 光葉 (14) 〈関沢 美絃〉

瑠依のクラスメイト。

小学生の瑠依 (9) 〈小吹 奈合緒〉

回想。

米満 梓 (33) 〈寺田 浩子〉

瑠依の担任。

魚住 真奈 (14) 〈吉田 空〉

瑠依のクラスメイト。

谷川 若菜 (5) 〈浅見 史歩〉

彩佳の次女。光葉の妹。

Ⅲ 主な場面とセリフ・学習で扱うポイント

S1 中学校・二年一組教室（午後）

光葉 「(小声で)瑠依
ハッと目を覚
ます瑠依。



S2 同・校門近く

瑠依 「光葉、ありがとう。危うく爆睡する
ところだった」

光葉 「瑠依、寝過ぎ」

瑠依 「だって、数学、ムズイんだもん」

真奈 「だからあ、うちらと一緒に塾行こうよ。
部活もやめたんだしさ」

瑠依 「…塾は、いいや」

光葉 「瑠依、忙しいもんね」

真奈 「そうだ、ねえ見たよ、あの光葉が推し
てた動画」

光葉 「どうだった？」

真奈 「めっちゃ面白い」

光葉 「ウケるよね」

瑠依 「ごめん、忘れ物しちゃったから、先帰
ってて。バイバイ～」

光葉 「(気になるが) バイバイ」

S3 青野家・キッチン～リビング

瑠依 「ただいま」

S4 同・ベランダ

瑠依が洗濯物を取り込んでいる。
家族四人分。男物のパジャマも取り込む。

S5 同・キッチン～リビング

咲子 「ただいま」

瑠依 「お帰り」

咲子 「はあ～、今日はずっと外回りだったか
ら疲れた。急にお客さんに来いって
言われてさ、こっちの都合なんて関係な
いんだから。書類仕事も溜まってんのに、
もおホントやんなっちゃう」

瑠依、素早く麦茶をコップに入れて咲子に持って行く。

咲子 「ありがと」

瑠依、畳んだ男物の洗濯物を指し

瑠依 「パパの洗濯物、乾いたよ」

咲子、お茶を一気に飲み干すと立ち上がる。

咲子 「よし！着替えたら病院に行ってくる。
パパが待ってるからね。そのままバイ

トに入るから、今日も遅くなる。虹太
のこと、頼むね」

瑠依 「うん」

S6 保育園

彩佳 「瑠依ちゃん」

瑠依 「こんにちは」

彩佳 「今日も瑠依
ちゃんがお迎
え？お母さん、
忙しいの？」



瑠依 「…まあ」

彩佳 「お父さんは？ 具合はどう？」

瑠依 「…大丈夫です」

彩佳 「(それ以上聞けず) そう。けど、瑠依
ちゃんは偉いね～。家のお手伝いして。
うちの光葉とは大違い」

瑠依 「・・・」

S7 通りA

瑠依 「虹太！ 待って！」

そこに、塾に向かう光葉と真奈が歩いてくる。

瑠依 「 ！ 」

虹太 「ボクが持つ」

瑠依 「いいよ、重
いから」

虹太 「持つ」

瑠依 「ああ、も～っ」



瑠依、イライラと地面に落ちたものを拾う。通りがかりの男性が、
転がったりんごを拾いあげて瑠依に差し出す。

灯の声「…これ」

瑠依 「ありがとうございます」

灯の声「青野さんだよ。四年二組の」

瑠依 「先生！？」

灯 「(ぎこちなく)
久しぶり。四
年ぶり？」

瑠依 「急ぐんで」



S8 通りB



S9 佐藤家

壁にかけられたリクルートスーツ。PCで履歴書を書いている灯。「在家庭 現在に至る」の経歴まで書いて、手が止まる。灯、思わずため息。ピンポンとチャイムが鳴る。



S10 同・時間経過

仏壇の前で合掌する世良歌絵。仏壇には灯の祖母の遺影が飾られている。歌絵、向き直って

歌絵 「突然ごめんなさいね。おばあちゃん、亡くなったの、ちっとも知らなくて」
灯 「お知らせしなくてすみません」
歌絵 「灯くん、すっかり大人になって。昔はおばあちゃんといっしょによくうちの美容室に」
灯 「歌絵さん、でしたよね。時々、僕が祖母の髪を洗っていると、『ねえ、歌絵さん』なんて。認知症がだいぶ進んでたんで」

歌絵、込みあげるものがあり

歌絵 「知っていればシャンプーしに来たのに。灯くん、一人で介護してたんですってね」
灯 「親代わりだったんで、祖母は」
歌絵 「お疲れさまでした。私も、実はずっと夫の介護をしててね。それでお店もやめちゃったの」
灯 「そうだったんですか」
歌絵 「全部一人でやらなきゃって思い込み過ぎてたのかな。夫を看取って独りになったら、何かこう、ぼっかり」

歌絵 「灯くん、確か学校の先生になったのよね」
灯 「いえ、育休中の先生の代わりに教えていただけなんです。正式採用を目指してたんですけど、介護と両立する自信がなくて、辞めました」



歌絵 「もう一度目指せないの？」

灯、リクルートスーツをちらっと見て

灯 「今さら…。この三年間、空白なんです。介護はキャリアとして評価してもらえないんですよ」
歌絵 「でも、頑張ってきたんだよね」
灯 「・・・」

S11 青野家・キッチン

虹太 「またカレー？ オムライスがいい」
瑠依 「無理」
虹太 「オムライスがいい」
瑠依 「もう、卵あるかな」

S12 同・両親と虹太の寝室（深夜）

瑠依 「やばい。寝ちゃった。勉強しないと」
咲子 「あっ、明日から中間テストか」
咲子 「パパ、まだしばらく入院だって」
瑠依 「そっか」
咲子 「先寝るね。この間、パパのことで急に休んだから。いろいろ言われちゃって」
瑠依 「今日、光葉のお母さんに聞かれた。『ママの仕事、忙しいの？』って。あとパパのことも」

咲子、急に厳しい口調になり

咲子 「何も話してないわよね」

瑠依 「うん」
咲子 「話したって何も変わらないんだから。この間だって本町のおばさんに言われたでしょ。『大変だろうけど、家族でしょ』って。家族で乗り切るしかないのよ」



瑠依 「うん」
咲子 「頼りにしてるよ、お姉ちゃん」
瑠依 「・・・」

S13 通りA

瑠依 「虹太、急いで」
虹太 「お姉ちゃん、体操服は？」
瑠依 「やば。時間ないよ」
虹太 「体操服、いるんだよ」



瑠依 「わかってるよ。どうしよう」
灯 「青野さん、どうしたの？」
瑠依 「大丈夫です」
灯 「いや、でも」
瑠依 「(拒絶) 大丈夫です！」
彩佳の声 「ちょっと、何してんの！」
彩佳 「(顔を見て) あっやだ。佐藤先生！？ こんにちは」

虹太の手を握り、来た方向に戻ろうとする瑠依。

彩佳 「瑠依ちゃん。どこ行くの」

瑠依 「虹太の体操服、忘れたんで」
 彩佳 「ダメダメ。帰ってたら遅刻する。今日から中間テストでしょ」
 彩佳 「大丈夫。体操服なら保育園で貸してくれるよ」



彩佳 「うちも前に借りたことがあるから。そうだ、私が虹太くんを一緒に連れてって、先生に話しとく」
 瑠依 「でも…」
 彩佳 「瑠依ちゃん。ここは任せて。はい。虹太君行こう。テスト、頑張って」
 彩佳 「行ってらっしゃい」
 彩佳 「やっぱり無理してるのね。瑠依ちゃん」
 灯 「何かあったんですか？」
 彩佳 「瑠依ちゃん、お父さんが病気で入退院を繰り返してるんです。だから、お母さんがその分働いてて、よその家のことだし、余計なお節介だとは思っただけど…」

S14 境内

灯 「今日は、ありがとうございます」
 歌絵 「こちらこそ。久しぶりにおばあちゃんとおしゃべりしたような気分」
 灯 「祖母は認知症になってからは人と会いたがらなくなって。僕もあまり人には言いたくなくて」
 歌絵 「誰かに相談した？」
 灯 「ケアマネジャーさんとは話してたんですけど、他の人には…。一度、友達に祖母の介護をしてるって話したら、明らかにひかれて」
 歌絵 「相談しづらくなるわよね」
 灯 「まあ、わかってもらえないよなって」
 灯 「あの、ちょっと気になることがあって…」
 歌絵 「 ? 」



S15 公園

歌絵 「その子、ヤングケアラーじゃないかな。家族の介護や世話に追われている子どもたちのことを言うんですって」
 灯 「へえ」
 歌絵 「『昔はそんな子いっぱいいたよ』って言う人もいるけど、時代が違うのよね。勉強や健康にも影響が出るだろうし、ほっとけないわよね」
 灯 「歌絵さん、詳しいですね」
 歌絵 「知り合いにね、スクールソーシャルワーカーがいるの。知ってる？」
 灯 「はい。子どもたちの問題を解決するために、教員や保護者と話したり、行政につないだりする人ですよ」
 歌絵 「その人が言うにはね、子どもたち自身は自分がヤングケアラーだっていうことに気づいてない人が多いみたい」
 灯 「そうですね。自分にとってはそれが日常だし」
 歌絵 「でも、心も身体も壊れそうになっている子たちもいる」
 灯 「・・・！」
 歌絵 「親も苦しんでるんだよね。家族のことを他人や役所に相談するのは恥ずかしいって思ったり」
 灯 「わかる気がします」
 歌絵 「子どもも『しんどい』って言えなくなっちゃうよね」
 歌絵 「…でね、私、こういうこと考えてるんだけど」
 灯 「週末子ども&大人カフェ」
 歌絵 「うん。さっき話したスクールソーシャルワーカーの人とね」



歌絵 「子どもから大人まで、家族をケアしている人が一息つけて、何でも気軽に話せるそんな居場所を作りたいなあって。『ケアラーをケアするカフェ』みたいな？」
 灯 「へえ～」
 歌絵 「公民館で、今月から開催するの。灯くんも手伝ってくれない？」
 灯 「いやいや、僕なんて自分のことで精一杯で」

S16 佐藤家

灯、スマホで「ヤングケアラー」を検索。厚生労働省の『ヤングケアラーについて』の画面。

S17 中学校（一週間後）

米満 「最近、よく居眠りしてるけど、少し疲れてる？」

瑠依 「・・・」

米満 「中間テストの点数もだいぶ下がってるから、大丈夫かなって」

瑠依 「・・・」

米満 「おうちのことで何か困ってるんなら、私からお母さんに話そうか」



瑠依 「大丈夫です！ 期末テストは頑張ります」
米満 「・・・」

S18 同・下駄箱付近

光葉 「瑠依！ 先生、何だって？」

瑠依 「光葉、先生にうちのこと話した？」

光葉 「話してない。てか、瑠依、何にも話してくれないじゃん。ママも瑠依のこと心配してた。私も心配」



瑠依 「そういうのうざっ。光葉に話してもわかんないよ」

光葉 「！」

S19 公園

灯 「青野さん」

慌てて涙を拭く瑠依。

灯 「あの…テスト、どうだった？」

灯 「青野さん、理科と算数が得意だったよね」

瑠依 「そんなの昔の話です。よく覚えてますね」

灯 「だって、僕の教え子はあの時の四年二組だけだから」

瑠依 「え、先生、辞めちゃったの？」

灯 「うん」

瑠依 「何で？ 何で辞めたの！？」

灯 「一緒に暮らしてる祖母が認知症になってね。世話ができるのは僕一人です。」



先生はもう無理かなって」

灯 「青野さんのお父さんも、入院されてるって？」



灯 「ごめん。話したくなかったら、いいから」
瑠依 「…。お父さんもお母さんも頑張ってるんです。弟はまだ小さいし…私、お姉ちゃんだし」

灯 「『みんな大変なんだから、自分がやるしかない。頑張らなきゃ』って思うよね。でも、一人で頑張るのって、しんどくない？」

瑠依 「！？」

灯 「僕は、しんどかった。大丈夫じゃないのに、大丈夫なふりしてた」

瑠依 「・・・」

灯 「だから、思うんだよね。一人で頑張るだけが強さじゃない。『助けて』って言えばよかった」

瑠依 「行かなきゃ」

S20 青野家・キッチン～リビング（夕方）

咲子 「ただいま」

瑠依 「おかえり」

咲子 「あ～、今日は最悪。説明が足りないってお客さんからクレームが入ってさ。もともと面倒臭い人なのよ。マネージャーも助けてくれないし」



瑠依 「(遮って) ママ、ごめんなさい。こないだ私も虹太の体操服を忘れて、光葉のお母さんに助けてもらったの」

咲子 「え…」

瑠依 「ごめんね。ちゃんとできなくて」

咲子 「違う、違う、違う」

咲子 「ちゃんとしてないのは、お母さんの方だよ。ダメなお母さんでごめんね」

S21 佐藤家

色紙 『灯先生、ありがとうございました』『四年二組、最高！』『ステキな先生になってね』等、たくさんの書き込みの中に『青野瑠依』の名前。瑠依の文字『私も先生になりたい！』

××××××××××××××

(回想) 小学校の教室・四年前

瑠依 「先生、自由研究のテーマ、決めた！」
 灯 「お！何だろ」
 瑠依 「夕焼け！夕焼けと翌日の天気の関係！
 きれいな夕焼けの次の日って、晴が多い
 気がするんだ…」



××××××××××××××

灯 「俺はもう先生じゃないんだから」
 歌絵の企画書が気になりページをめくると、目に入って来る言葉。
 文字 「つながることで、変えられる」

S22 カフェ

歌絵 「ごめんなさいね。わざわざ来てもらっ
 ちゃって」
 灯 「こちらこそ、急にすみません」
 歌絵 「こちら、この間話していたスクールソ
 ーシャルワーカーの月村さん」
 美織 「初めまして。
 月村美織です」
 灯 「どうも、は
 じめまして。
 佐藤灯と言いま
 す」
 歌絵 「今ね、いろいろとアイデアを練って
 いたの」
 灯 「あの、それで、このカフェなんですけど、
 ここで子どもたちに勉強を教える
 っていうのはありですかね。僕でよ
 ければ…ですけど。一応教員免許を持
 ってて…、育休の先生の代わりに一年間
 教えてただけで、たいした実績はない
 んですけど…ただ、何というか」
 歌絵 「いい！名案です、灯くん」
 美織 「そうすれば、ヤングケアラーの子ども
 たちも来やすいですよ。勉強の遅れ
 も取り戻せる」
 灯 「すみません。部外者なのに急に」
 歌絵 「ううん。灯くんだから気が付けたんだ
 よ。ありがとう」



S23 青野家・玄関 (数日後)

瑠依が数枚の郵便物やチラシを手にかに。
 チラシの中に「週末子ども&大人カフェ」のチラシが入っている。
 チラシには付箋がつけられている。
 付箋の文字「弟さんも連れて遊びにきてね」
 瑠依、その字とイラストに見覚えがある。

S24 保育園

彩佳 「週末子ども&
 大人カフェ？」
 灯 「はい。お子
 さんには食べ
 て遊んでもら
 って。大人に
 はのんびりお茶でも飲んでもらおうか
 なって」
 彩佳 「へえ〜。(何か思いつき)」



S25 青野家・子ども部屋 (夜)

瑠依が机で数学の問題集を解いている。
 難しく解けずにイライラ。
 瑠依 「…全然わか
 んない…」
 絵本を持った虹太が来て
 虹太 「お姉ちゃん、
 絵本読んで」
 瑠依 「ごめん。無理。早く寝て」
 虹太 「眠たくない」
 瑠依 「(切れて)うるさい！黙って寝てっ」
 べそをかく虹太。
 怒りながら、瑠依も一緒に泣く。



S26 同・和室

掃除機を押し入れに仕舞おうとして、
 段ボール箱に目を留める。
 箱を開けると『四年二組 青野瑠依』
 と書かれた『自由研究帳』が出てくる。



S27 公民館 (週末子ども&大人カフェ)

歌絵 「待ち人來たらず？」
 灯 「ですね。また声をかけます」
 虹太 「こんにちは！」
 瑠依 「私、大丈夫じゃないみたい」

灯 「！」
 瑠依 「参考書を読んでも、全然わかんない」
 灯 「そっか。ありがとう。来てくれて」
 歌絵 「さ、入って。プリンもあるよ！」
 虹太 「やったー！」



S28 同・イベントルーム

灯 「Yイコールマイナス3分の2Xマイナス2。グラフにするときには、切片をまず取って。切片はいくつ？」
 瑠依 「セッペン？」
 灯 「この関数の直線とY軸が接する点はどこ？」
 瑠依 「点？ああ、切片って接点のことか」
 灯 「そう」
 瑠依 「なんでわざわざ難しくするかな…」

虹太の鳴き声が聞こえる。瑠依が立ち上がるが、すぐに女性が抱き起してなだめる。

歌絵 「大丈夫、みんないるから安心して」
 瑠依 「…うん」
 灯 「よし、集中してやれそうだね」
 瑠依 「うん！」
 灯 「ここは切片で、傾きは？」
 瑠依 「マイナス3分の2？」
 灯 「Xが、一つ大きくなったら、Yはいくつ大きくなるかってことなんだけど。この場合、マイナスだから下がるよね。3進むうちに2下がる」
 灯 「この点とさっきのY軸と接している点」
 瑠依 「切片!!」
 灯 「そう、これをつなぐと…」
 瑠依 「傾いてる」
 灯 「すごい！そう！だから傾き。ここがマイナス2だと、1進むごとに2下がるから、こうなる」
 瑠依 「傾きが急になった… (満面の笑みで) だから傾きの大きさ！」
 灯 「そう！じゃこの問題やってみよう！」
 瑠依 「切片が… マイナス2 (書き込んで)」
 灯 「すごい！」

部屋の入り口に、咲子が現れる。



瑠依 「傾きは、増える方向…2進んで1増える！」
 灯 「正解！」
 瑠依 「やったー！すごい！できるよ！簡単じ

ゃん！何で分かんなかったんだろう」
 灯 「じゃ、こっちの問題もやってみよう！」
 彩佳 「咲ちゃん！…来てくれたんだ。ありがとう」
 咲子 「瑠依のあんな顔見たの、久しぶりで…」



S29 同・イベントルーム

瑠依 「これ覚えてる？」
 灯 「自由研究。夕焼けの！」
 嬉しそうにうなづく瑠依。
 灯の字『すごーっ。夕焼け博士！ これからも好きなことを追っかけてね』
 瑠依 「この言葉、すごい嬉しかったよ。先生」

S30 公民館屋上

瑠依 「夕焼けってこんなにきれいだったんだ。この頃、夕焼けを見ると『もう日が暮れちゃう。急いで帰んなきゃ』って胸がザワザワして…。先生、私、やりたいこと追いかけてもいいんですよね。」
 灯 「もちろん。(独り言) …僕もね」



夕焼け空を見る瑠依と灯。
 瑠依のスマホにメールの着信。
 スマホを見る瑠依。光葉からのメッセージを開く。

光葉の言葉『瑠依のことが大好きだよ』『それだけ』
 灯 「夕焼け博士、明日のお天気は？」
 瑠依 「晴れます！」



(終)

Ⅳ 学習会を開催するにあたって

1 学習会全体の流れ

学習会を始める前に、計画や運営の面でどのようなことに注意していくとよいか、基本的な内容についてチェックしてみましょう。

【準備】

- 学習のねらいが、はっきりしている。
- 学習内容は、学習者が知りたいことである。
- 実施時期や時間、場所は、学習者に無理のない設定である。
- 指導者や講師は、ねらいや内容の点から適任である。
- 学習方法は、講義や討論、ビデオ視聴など学習者や内容に合わせて決めている。
- 資料や機材等の確認ができています。
- これまでの学習会における改善点を確認する。

効果的な学習会にするための最大のポイントは、ねらいの明確さです。学習内容や指導者（講師）選択は、しっかりとしたねらいに沿って決める必要があります。また、事前に指導者（講師）と打合せを行い、担当者の考えを伝えておきます。話し合いをする場合、身近で、だれもが知りたいと感じているテーマを扱うことで、意見が活発に交換され、充実した気づきの場となります。

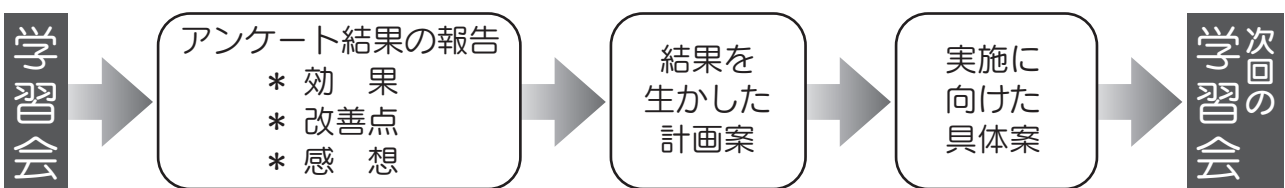
【実施】

- 円滑な進行をめざして、シナリオ（進行手順）を作成するなど工夫している。
- ワークシートを、学習者が考えを整理するための資料として活用している。
- 話しやすい雰囲気づくりを心がけ、プライバシー厳守や他者を批判しないなど話し合う際のルールが共有できている。
- 実施中に学習者の様子を観察するなど、評価の視点を取り入れている。
- アンケートに、理解の程度や内容に関する項目、自由記述などを入れている。

学習会を成功させるには、全体の流れがイメージできていることが重要です。受付や挨拶、講演や討論の質疑応答などの時間配分も含めて、計画に沿って進めていきます。話し合いをする場合、学習者同士の関わりによって新たな気づきが生まれるので、学んだ効果を発表し合うなど、振り返りの機会を持つことが大切です。学習者が、「聞く」「見る」「話す」「作る」など、変化のある活動ができるように心がけます。

【実施後】

- アンケート結果を、効果があった点と改善点とに分けてまとめ、報告する。
- アンケート結果をもとに、次回の学習会に向けた計画案を作成する。



〈学習者の視点を大切に〉

- ◎学習者に新たな気づきがあったか。
- ◎学んだことが日常生活につながっているか。

2 学習展開例

ワークシート1(P10)は、グループ学習を行う場合を、ワークシート2(P11)は、個々で学習を行う場合を想定したシートです。ただし、参加者の状況に応じて柔軟に工夫をして、より学習に役立つものにしてください。60分の学習を想定していますが、参加人数や時間によって、話し合う項目数や時間配分を調整し、無理のない学習を行いましょう。

※90分以上の場合は、4人程度の少人数によるグループワークを適宜取り入れて実施することをお勧めします。

学習のねらいと関連する場面（セリフに下線）

1 ヤングケアラーへの理解を深め、これまでの意識について考える。

- ・P2「瑠依ちゃんは偉いね～。家のお手伝いして。うちの光葉とは大違い」（彩佳）
- ・P3「全部一人でやらなきゃって思い込み過ぎてたのかな。」（歌絵）
- ・P3「介護はキャリアとして評価してもらえないんですよね」（灯）
- ・P3「話したって何も変わらないんだから。この間だって本町のおばさんに言われたでしょ。『大変だろうけど、家族でしょ』って。家族で乗り切るしかないのよ」（咲子）
- ・P4「よその家のことだし、余計なお節介だとは思っただけど…」（彩佳）
- ・P4「まあ。わかってもらえないよなって」（灯）
- ・P4「『昔はそんな子いっぱいいたよ』って言う人もいるけど、時代が違うのよね。勉強や健康にも影響が出るだろうし、ほっとけないわよね」（歌絵）
- ・P5「光葉に話してもわかんないよ」（瑠依）
- ・P5「僕は、しんどかった。大丈夫じゃないのに、大丈夫なふりしてた（中略）『助けて』って言えばよかった」（灯）

2 だれもが互いの人権を尊重する中で、それぞれの自己実現の達成へ向け歩んでいける社会の実現について考える。

学習活動		学習活動を支援するポイント	
1 開会（3分） ・学習のねらいと流れを知る		<始める前に> 学習活動4（意見の交換）をグループで行う場合は、参加者の着席状況を見て、席の移動をお願いする。 ○すべての学習のねらいを扱うことはできないので、参加者に特に必要と思われるものを選択する。	
2 ビデオの視聴（36分）		○学習活動3（ワークシートの記入）でどちらのワークシートの何番の間を使うかを決め、事前に2ページからの「主な場面と台詞・学習で扱うポイント」を使い、注意して視聴するポイントを学習者に伝える。	
3 ワークシートの記入		【ワークシート1】	【ワークシート2】
【ワークシート1】 ・指定された間について記入する（5分）	【ワークシート2】 ・できるだけ具体的に記入する（10分）	○ワークシートの間をすべて扱うことは時間的にできないので、ビデオの視聴の前に伝えたポイントに該当する間と、時間に余裕があれば扱いたい間を記入してもらう。	○空欄は資料編を参考にする。実際に身の周りの生活を振り返って、具体的な事例について考える作業になるので、見せ合ったりせず、じっくりと考えて記入してもらう。
4 意見の交換 ・グループでの話し合いの後、全体で意見を聞く（12分）		○グループでの話し合いの様子を見ながら、全体の前で意見を発表してもらうペアを選び、事前に発表者をお願いしておく。	○記入の際に、事前に発表者を数名お願いしておく。
5 まとめ（4分）		○資料編（P12～P15）を使うなどして、内容のまとめや相談窓口等について説明する。	

3 ワークシート

■■■『夕焼け』ワークシート1■■■

場面やセリフから考えましょう

(1) 瑠依の生活は、他の中学生とどのような違いがありましたか。また、その違いはどのような問題につながりますか。

(2) ケアラー当事者や周囲の人は、この状況をどのように考えているでしょうか。

- ・ P3 「話したって何も変わらないんだから。(中略) 家族で乗り切るしかないのよ。」(咲子)
- ・ P4 「ええ。わかってもらえないよなって」(灯)
- ・ P4 「『昔はそんな子いっぱいいたよ』って言う人もいるけど、時代が違うのよね。」(歌絵)
- ・ P5 「光葉に話してもわかんないよ」(瑠依)
- ・ P2 「瑠依ちゃんは偉いね～。家のお手伝いして。うちの光葉とは大違い」(彩佳)
- ・ P4 「よその家のことだし、余計なお節介だとは思うんだけど…」(彩佳)

(3) 瑠依が自身の未来に対して希望を見いだすことができたのは、どうしてでしょうか。

(4) 身近にいるケアラーに対してあなたならどんなことができるでしょうか。

映像内容や資料編から考えましょう

(1) ケアラーの現状について考えてみましょう。

※資料編（P13～）の下線部分を参考にしてください。

①空欄を埋めてみましょう

ケアラー	「介護」「看病」「療育」「世話」「心や身体に不調のある家族への気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者・友人・知人などを無償でケアする人のこと。
()	本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。
()	子育てと介護を同時に担うこと。
()	65歳以上の高齢者を同じく65歳以上の高齢者が介護している状態のこと。

- ・中高生の約（ ）人に1人がヤングケアラーに該当する。
- ・ヤングケアラーは1日平均で約（ ）時間、家族のケアを行っている。
- ・高齢者人口の総人口に占める割合は約（ ）人である。そのうち要介護認定者数は約（ ）人である。

②もし、あなたが今日からケアラーとなった場合、どのような悩みが出てくると思いますか。また、そのことについて誰に相談しますか。

(2) ヤングケアラーである瑠依が、ラストシーンで笑顔になれたのは、灯のどんな思いが支えになったからでしょうか。

(3) この映像を観て身近にいるケアラーにあなたならどんなことができると思いますか。

V 資料編「ケアラーについて」

1 用語解説（厚生労働省、兵庫県）

(1) ケアラー

「介護」「看病」「療育」「世話」「心や身体に不調のある家族への気づかい」など、ケアの必要な家族や近親者・友人・知人などを無償でケアする人のこと。

①ヤングケアラー

法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どもとされている。

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子どもだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

© 一般社団法人日本ケアラー連盟

②ダブルケア

晩婚化・晩産化等を背景に、育児期にある者（世帯）が、親の介護も同時に担うこと。

③老老介護

同居する家族や親族が自宅で介護をする在宅介護のうち、介護をする側と受ける側がお互いに65歳以上のこと。

(2) スクールソーシャルワーカー

さまざまな関係機関と連携して、福祉的な視点から、児童虐待や問題行動などの背景にある児童生徒を取り巻く環境の改善を図る福祉の専門家のこと。

兵庫県では県教育委員会と市町組合教育委員会が「スクールソーシャルワーカー」を配置し、学校への支援を進めています。

○職務内容等

- ・問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け
- ・関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
- ・学校内におけるチーム体制の構築、支援
- ・保護者や教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ・教職員等への研修活動 等



出典：内閣府「令和3年度版 子供・若者白書」

2 ケアラーに関する状況

(1) 高齢者数および要介護者数（総務省、厚生労働省）

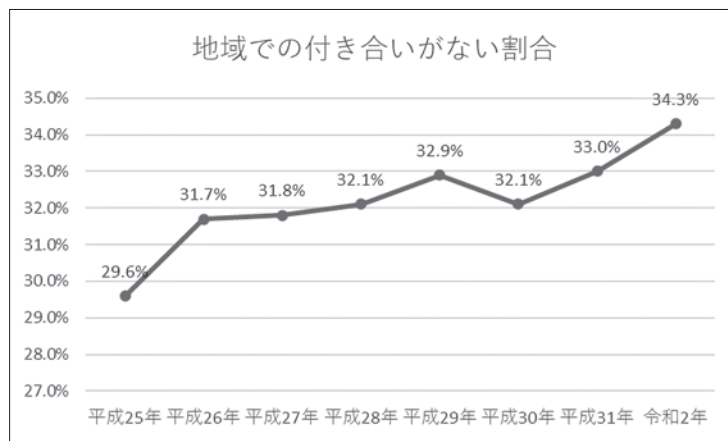
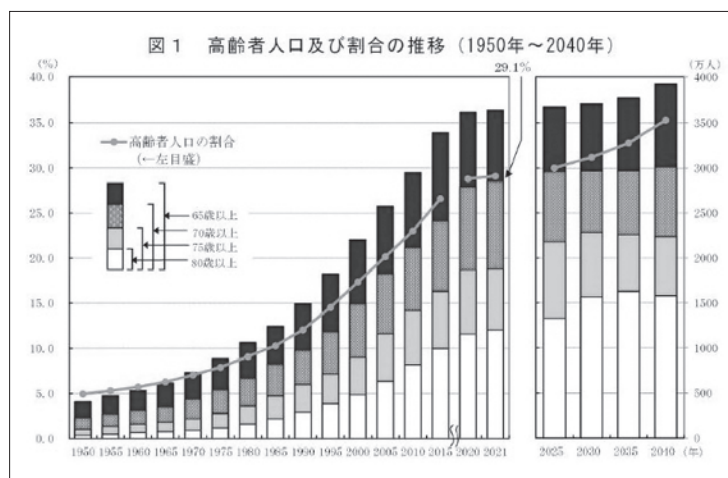
・ 高齢者数

総人口が減少する中で、全国（令和3年9月）の高齢者人口は3640万人と過去最多である。総人口に占める割合は29.1%と過去最高である。

兵庫県（令和2年）では高齢者人口は156.7万人、割合は28.7%である。

・ 要介護（要支援）認定者数

全国（令和3年3月末現在）の要介護（要支援）認定者数は、681.8万人である。兵庫県（令和2年）では32.0万人である。認定者数は増加傾向にある。



(2) 地域でのつきあいの希薄化傾向（兵庫県、令和2年）

平成25年度は、地域での付き合いがないと感じている人の割合が3割弱であったが、年々増加傾向にあり、平成26年以降は、3割を超える住民が地域での付き合いがないと感じている。

出典：内閣府の「内閣府の社会意識に関する世論調査、令和2年」を基に作成

3 ヤングケアラーの実態に関する調査研究（厚生労働省・文部科学省、令和3年）

対象者：中学2年生、高校2年生

- ・中高生の20人に1人（中学5.7%、高校4.1%）がヤングケアラーに該当する。
- ・世話をする対象は、きょうだい（中学61.8%、高校44.3%）が一番多く、「幼いきょうだい」の「見守り」「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」をする割合が高い。
- ・世話をする時間は1日平均で約4時間であり、7時間以上世話をしている生徒は10%以上いる。
- ・平日に世話をする時間が長いほど。ヤングケアラーの学校生活状況は「学校を休みがち」「遅刻や早退が多い」「学校では一人で過ごすことが多い」などの割合が高い。
- ・ヤングケアラーの5割以上は、誰かに相談したことが無く、その理由の多くは「だれかに相談するほどの悩みではない」「相談しても状況が変わるとは思えない」と答えており、本人らから実態が表面化しづらく把握されていないことが多い。

4 兵庫県ケアラーの実態に係る福祉機関調査の中間報告（兵庫県、令和3年9月）

○ ヤングケアラーの属性

小学生27.6%、中学生45.7%、高校生22.4%
※中学生のヤングケアラーが半数程度となっている。

○ ヤングケアラーの認識

「ヤングケアラーである」との認識をもっている・・・「いる」15.4%、「いない」41.3%
※ヤングケアラーであると認識をもっていない割合は、4割を超えている

○ ケアをしている相手

「兄弟姉妹」56.1%「母」24.6%「父」6.2%
※ケアの相手が兄弟姉妹とする回答が半数以上となっている。

○ ケアをしている相手の状況【複数回答】

「若い」46.4%「精神障害」14.0%「知的障害」8.7%

○ ケアの内容【複数回答】

「きょうだいのケア」55.9%「家の中の家事（食事の用意、後片付け、洗濯、掃除など）」47.6%、「感情面のケア（その人のそばにいる、元気づける、話しかけるなど）」16.5%

○ ケアの頻度

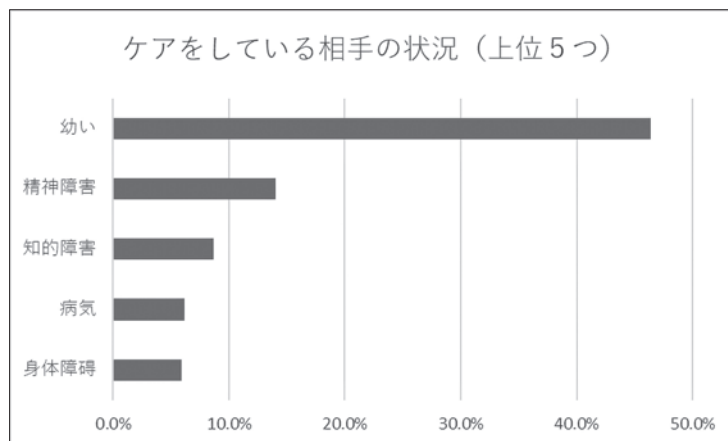
「毎日」48.0%「週4～6日」7.9%
「週2～3日」4.3%
※毎日ケアをしているヤングケアラーが半数近くとなっている。

○ 生活の影響【複数回答】

「学校を休みがちになっている」31.5%「ストレスを感じている」24.8%「学校への遅刻が多い」15.0%、「自分の時間がとれない」12.2%、「友人と遊ぶことができない」10.2%
※学校生活への影響や体調面、自由な時間が取れないといった影響が出ているヤングケアラーもいる。

○ 必要と思われる支援【複数回答】

「電話や訪問による相談体制の整備」32.7%「ヤングケアラーに役立つ情報の提供」20.1%「社会的なヤングケアラー支援への理解」18.9%、「経済的な支援」17.7%



5 ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告

(厚生労働省・文部科学省、令和3年) <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/young-carer-pt.html>

今後取り組むべき施策について

(1) 早期発見・把握について

- ア 学校においてヤングケアラーを把握する取組
- イ 医療機関・福祉事業者の関わりがある場合に、ヤングケアラーを把握する取組
- ウ 児童委員や子ども食堂など地域や民間の目でヤングケアラーを把握する取組
- エ 地方自治体における現状把握の推進

(2) 支援策の推進

- ア ピアサポート等の悩み相談や、福祉サービスへのつなぎなど相談支援の推進
- イ スクールソーシャルワーカー等を活用した教育相談体制の充実や、NPO等と連携した学習支援の推進
- ウ ヤングケアラーが子どもであることを踏まえた適切な福祉サービス等の運用の検討
- エ 幼いきょうだいをケアするヤングケアラーへの支援

(3) 社会的認知度の向上

- ア 広く国民に対する広報・啓発の推進
- イ 福祉や教育分野など関係者の理解促進
- ウ 社会的認知度を高めるような当事者活動への支援

6 ケアラー等に関する相談機関について

(1) 介護について

○ 地域包括支援センター（兵庫県）

高齢者の多様なニーズや相談に総合的に対応し、必要なサービスを包括的・継続的に調整する地域の拠点として、「地域包括支援センター」を市町が設置しています。

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/2020houkatsucenter.pdf>

(2) ヤングケアラーについて

○ 全国

■ 児童相談所相談専用ダイヤル

0120-189-783

受付時間：24時間受付（年中無休）

■ 子どもの人権110番（法務省）

0120-007-110

受付時間：平日 8:30～17:15 土・日・祝日・
年末年始は休み

■ 24時間子供SOSダイヤル（文部科学省）

0120-0-78310

受付時間：24時間受付（年中無休）

○ 兵庫県

■ 公益財団法人 兵庫県人権啓発協会

078-242-5355

受付時間：平日 9:00～17:00 土・日・祝日・年末年始は休み

■ 社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団

078-929-5655



新型コロナウイルス感染症については、
正確な情報を入手し、人権侵害につながることをないよう、
冷静な行動をお願いします。



令和3年12月 発行

兵庫県健康福祉部社会福祉局人権推進課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
TEL(078)362-9135 FAX(078)362-4266

公益財団法人兵庫県人権啓発協会

〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目22番15号
TEL(078)242-5355 FAX(078)242-5360
URL <http://www.hyogo-jinken.or.jp>

複写＜転載＞について

人権啓発ビデオ活用ガイド及びパッケージ、チラシについて、複写＜転載＞される場合は、当協会に申請が必要となります。詳しくは当協会HP (<http://www.hyogo-jinken.or.jp>) をご覧になるか、当協会までお問い合わせください。

